

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	連携カリキュラムの実践 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 教材の交流 児童・生徒の交流	連携カリキュラムの検証と改善 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 児童・生徒の交流 各校の取り組みの交流	連携カリキュラムの総括 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 児童・生徒の交流
確かな学力の育成	子ども 自分の意見を持ち、表現できる	- 研究授業・公開授業や研修会の開催。 - 自主研修会の開催。 - 授業の基本型(大池スタンダード)の実践と検証。 - ICT機器を有効的に活用。 - 校内の「ノートの達人」の充実。 - 週に1度、読書活動の時間の確保。 - 基礎学力の定着するための時間の確保。 - 自主学習への取り組み	- 研究授業・公開授業や研修会の開催。 - 自主研修会の開催。 - 授業の基本型(大池スタンダード)の実践と検証。 - ICT機器を有効的に活用。 - 週に1度、読書活動の時間の確保。 - 各取組みの検証・次年度への改善。 - 自主学習への取り組み - 基礎学力の定着するための時間の確保。	- 研究授業・公開授業や研修会の開催。 - 自主研修会の開催。 - 授業の基本型(大池スタンダード)の実践と検証。 - ICT機器を有効的に活用。 - 週に1度、読書活動の時間の確保。 - 各取組みの検証・次年度への改善。 - 自主学習への取り組み - 基礎学力の定着するための時間の確保。
豊かな人間性を育む	子ども 心豊かにお互いをみとめあ	- 道徳科の授業作りの研修、評価に向けての検討 - アンケート実施。 - アンケートをもとに人権教育の重点目標の設定。 - 児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 - 図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 - 外部講師を招いて体験学習の実施。	- 道徳の授業実践の交流や研修会の実施。 - 児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 - 図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 - 外部講師を招いて体験学習の実施。	- 道徳の授業実践の交流や研修会の実施。 - 児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 - 図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 - 外部講師を招いて体験学習の実施。 - 課題の共通認識を図る。
健康・体力の増進	もの育成 自分の身体を知り、運動に進んで親しむ子ども	- 全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 - 講師を招聘し、校内研修を行う。 - 茨木っ子運動Ⅱの検証。 - 校内研究授業の実施。 - スポーツタイムの場の設定。 - 備品等の充実といった環境の整備を図る。 - 給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 - 日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 - 体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。	- 全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 - 講師を招聘し、校内研修を行う。 - 新学習指導要領のポイントについて学ぶ。 - 校内研究授業の実施。 - スポーツタイムの場の設定。 - 備品等を充実させ環境の整備を図る。 - 給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 - 日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 - 体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。	- 全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 - 講師を招聘し、校内研修を行う。 - 新学習指導要領に応じた研究授業の実施。 - スポーツタイムの場の設定。 - 備品等を充実させ環境の整備を図る。 - 給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 - 日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 - 体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。
支援教育の充実				

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ 正答率が低く、無解答率が高い設問
漢字を文の中で正しく使う設問
- ・ 無解答率が低い
目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む設問

分析

- ・ 学習指導要領の領域ごとに見ると、概ね良好な結果であった。
- ・ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において課題が残るため、漢字の定着を図る取組みが必要であると考えられる。
- ・ 問題形式については、選択式および記述式において良好な結果であった。
- ・ 記述式では、話すこと聞くことで概ね良好な結果であった。
- ・ 「目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書く」という課題を授業の中で設定していく必要があり、また「目的に応じて文章を読む力」をつけるための手立てや学習展開を意識していく必要もあると考えられる。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった |
| ②量と測定 | 概ね良好な結果であった |
| ③図形 | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ 正答率が高い設問
長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ設問
- ・ 正答率が低く、無解答率が高い設問
減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く設問

分析

- ・ 学習指導要領の領域ごとおよび問題形式を見ると、概ね良好な結果であった。
- ・ 無解答率0%の問題が4問見られた。
- ・ 「台形の構成要素について理解する」問題は、良好な結果であった。
- ・ 普段の学習から、自分の考えや理由を説明したり、記述したりする学習を積み重ねること、また図や式が何を表しているのか理解を深める学習が必要であると考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・正答率について、概ね良好であり、ここ数年例年並みの傾向であった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力低位層、エンパワー層ともに、依然として概ね良好な結果であった。

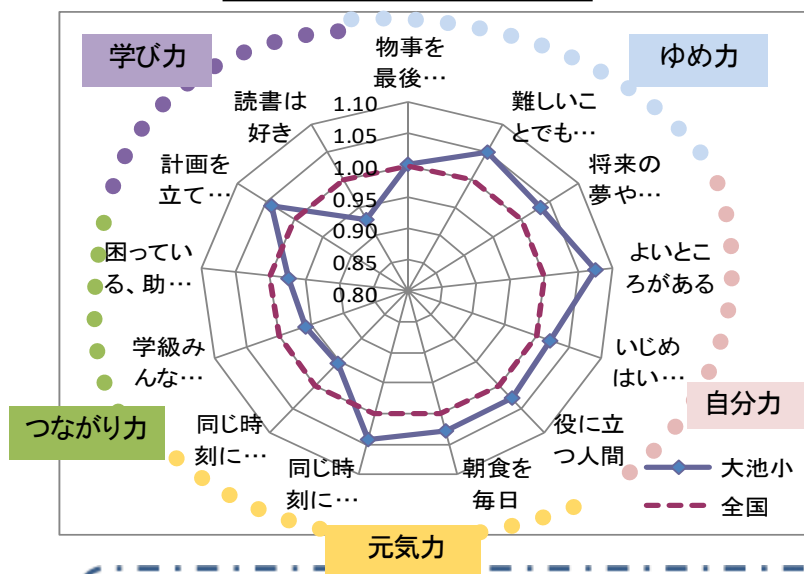
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

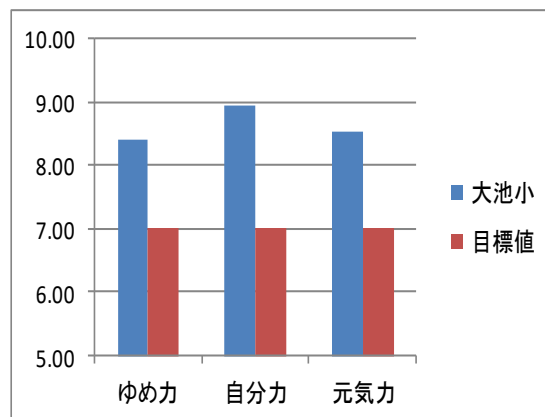
- ・全学年、研究授業か公開授業のどちらかに取り組むことで、授業の流れや発問の仕方について研究を深めていく。講師の先生に指導していただき、職員の共通理解を図る。
- ・各学年の学習のきまりを継続していき、1～6年生までの学習環境を統一し基本姿勢を定着していく。
- ・発表の仕方、話の聞き方を教室掲示し、安心して話せる学級環境づくりを行う。
- ・ノートのきまりを精査し児童が学習したことを振り返ってわかるようなノートを目指す。
- ・算数科の四則計算など基礎的な内容の問題を週に一度朝の学習や毎時間の始めの短時間で取り組む。
- ・児童が自分の考えをかけるよう、導入の工夫や考える時間の確保ができるような授業を実践し研究していく。
- ・授業の最後に振り返りとして一時間で学んだことなどを自分なりにかく取組みを継続して行う。また、児童が振り返りをかきやすいように「今日の学習でわかったこと」・「友だちの考えでよかったこと」・「今日の学習でおもしろかったこと、もっとやってみたいこと」の3つの視点を定めている。
- ・国語の授業の中で音読に取り組む。音読の方法も一通りではなく、一人読み、ペア読み・グループ読みなど多様な音読形態に取り組むことで、音読する力をつける。
- ・学習への習慣をつけるため、高学年から自主学習に取り組む。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は新聞紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

- ・いじめはなにがあってもいけない、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童が多い。
- ・計画を立てて学習し、見通しをもって取り組むことができる児童が多い。
- ・友だちとの話し合い活動を通して、学びを深めることや考えを広げることができていると感じている児童が多い。
- ・学校の図書室や図書館の利用率、新聞を読んでいると答えた児童について、概ね良好な結果であった。
- ・「読書は好き」について、依然として取り組みを継続する必要があると考えられる。

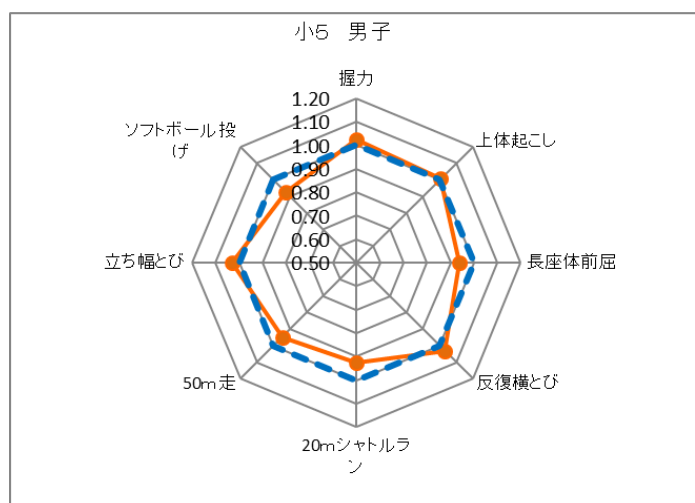
取組み

- ・現在、週に一度行っている朝の時間の一斉読書を継続する。また、児童会活動での図書委員会による、読書週間、読み聞かせ、本の紹介等を継続して行う。
- ・全校児童が本と関われる取組みを考える。学校図書館支援員と連携し、本に親しみやすい環境を整え、授業の中で読書活動を行う。例えば、毎月図書室に、月々のテーマ(季節やその月の行事など)や各教科に関連した内容のテーマを設定し、書籍の紹介や掲示をする。低学年から高学年まで本の読み聞かせを行い、その後に各学年に適した書籍の紹介もする。
- ・地域ボランティアの方と連携して、本に触れる機会を多くつくる。
- ・児童にとって魅力ある授業作りの実践を行う。そのために授業力向上のための研修会等を行う。
- ・4年生以上の学年では、計画的に学習するよう自主学習に取り組んでいる。

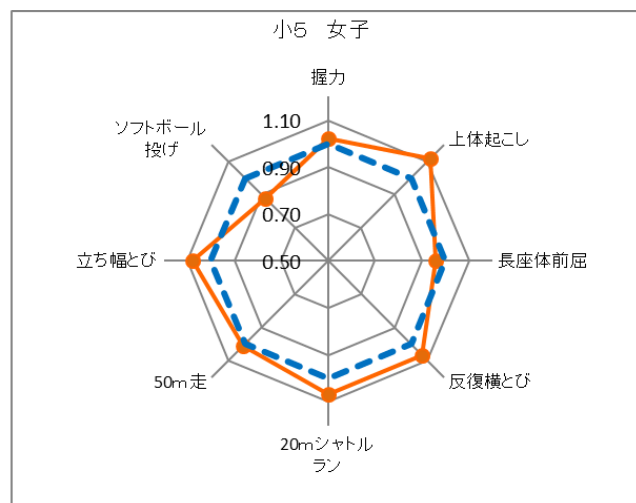
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○○●体力●○○

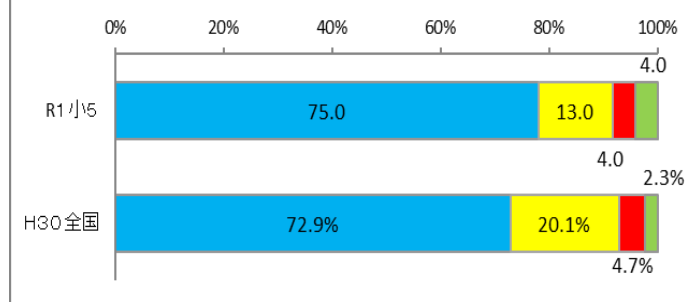
男子 (小5)



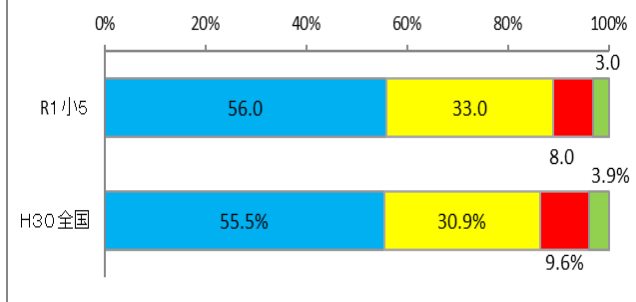
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・男女ともに多くの種目で全国平均と同等もしくは上回る結果が出ている。
- ・男女ともに立ち幅跳び、反復横跳びは全国平均を上回る結果となっている。
- ・女子は上体起こし、20m シャトルランが大きく全国平均を上回っている。
- ・全体の9割近い児童が運動・スポーツを好んでいることが分かる。
- ・ソフトボール投げや長座体前屈については男女ともに全国平均を下回り、引き続き指導を充実していく必要がある。
- ・全国平均とほぼ同等ではあるが、運動・スポーツを好まない児童もいることが分かる。

取組み

- ・全学年スポーツテスト実施。
- ・体育のあゆみ作成。
- ・なわとびカード、マラソンカードを校内で統一したものを使用。
- ・校内研修の実施。
- ・校外でのスポーツ大会への参加。
- ・体育学習でのふりかえりカードの活用。
- ・運動プログラム、短時間プログラムを活用。
- ・茨木っ子運動Ⅱの検証。
- ・体育施設、備品、学習具の整備充実。
- ・年間指導計画作成。
- ・校内研究授業の実施、講師を招いての全体討議会。